

はじめに

共通教育主管 奥田一雄

学ぶということは、人間に本来備わっている生きる力と智恵を目覚めさせること、あるいは、人間がどのように生きてきたかを知り、もって自分がどのように生きるかを問う、と言われていています。私たちは、好むと好まないにかかわらず、この自然のなかに存在し、現在の人間社会と文化に支えられ、新しい世界を創っていくのです。自分の生物としての存在を含めて自然はどうなっているのだろうか、人間がつくっている社会はどんなものだろうか、文化、言語、文明とは何だろうか、そして、現在の自然、社会、文化、芸術にはどのような歴史が刻まれているのだろうか。人間が生きてきた世界を、時間を超えて体験するということを想像してください。そのなかで自分と自分の周りにいる人々が今ある世界のどこにいるのか、どのようにつながっているのか探してみましよう。

教育は人間の生きる力と智恵を伝承してきました。学ぶことへの動機づけを行うことが教育です。教養というものは教育によって身に付くのではなく、自ら学んだ知識を社会で応用し、その結果を自分の生き方にフィードバックしながら育つものです。では、大学は何をするのでしょうか。大学は知識を単に伝達するところではなく、学生諸君が自ら学ぶことを触発し、そのことを支えて実現するための人材と環境を提供する場であると考えています。個々に多様な知識、経験、世界観をもつ高知大学の教員が担当する授業と、これらの授業から編成されるカリキュラムは、学生諸君が自ら学ぶことについての高知大学からのメッセージです。

高校までの勉強と知識は、大学での学びに役に立ちます。考えるために言葉が必要なように、基本的な知識は有効です。しかし、高校で習った教科とちがって、大学では教科を跨った、あるいは文系理系を問わず複数の教科が融合した学問に出会います。学ぶに従って、線から平面、さらには空間へと世界観と価値観は広がっていく一方で、知識は一層膨大となり複雑に絡まってきます。これは何なのか、なぜなのかという質問が出されても、答えは必ずしも一つとは限らず、すぐに見つかるわけでもありません。過去、現在、未来にわたって何が問題なのかを発見し、その問題をどのように解決するかを考え、自分自身の答えを導き出すこと、学びを通じたこの過程が、まさに自分が社会でどのように生きるかを問うということです。

共通教育のことを「^{ばんきょう}般教」(＝一般教育)とよぶ学生がいます。一般教育はいわゆる専門教育と対置されるものではありません。高知大学の4つの学部が一体となって学生諸君の学びを4年間にわたって支援するのが共通教育です。社会はいま大学生に教養を求めています。自然との共生、国際的な共存、人類の持続的発展、これらを可能にする科学技術や社会のありかた、情報の伝達、文化、人間の心はどのようなものであるのかということを、学生諸君は教員と一緒に考えてみませんか。